

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇仙台で住まいの復興に向けたシンポジウムを開催

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景（79）－【櫛玉命の祭祀】－

木下 清隆

■ [編集後記](#)

■ [トピックス](#)

◇仙台で住まいの復興に向けたシンポジウムを開催

来る10月10日(木)、仙台において「震災から3年、住まいのエンベロップ・デザインを改めて考えるシンポジウム」を幣協会主催で開催いたします。

弊協会ではかねてより樹脂窓の認知・普及活動を通じ省エネで快適な住まいづくりのご提案をしております。

住宅の省エネには、最も効果的な窓だけでなく、住宅のエンベロップ（建築外皮＝外壁、屋根、床、窓）全般についての対策が大変重要であることを広く知って頂くことを目途にシンポジウムを開催しております。昨年は11月に東京大学において、建築研究所／坂本雄三理事長をコーディネータに「環境時代のビルディングエンベロップを考える」というテーマで開催し、外皮の熱性能、耐久性、防火性などの性能と外皮設計について提言を頂き好評をいただきました。

今回は、建築研究所の坂本理事長のご挨拶、住宅の省エネ基準に設定に係われ、東日本大震災の被災地陸前高田で復興に尽力をされている北方建築総合研究所の鈴木大隆環境科学部長、地元で活動されている住まいと環境東北フォーラムの吉野博会長（日本建築学会会長）、東北芸術工科大学の三浦秀一准教授、再建に尽力されている復興庁の林俊行参事官に、形に見える復興の段階で、改めて住まいの再建に求められる「良質さ」などについてご講演をいただきます。

続いて、鈴木部長をコーディネータに、地元で復興に係わっておられる震災復興住宅供給の最前線で活躍されている、ヒノケン(株)の日野節夫社長、住田住宅産業(株)の佐々木一彦社長、部材メーカーの旭硝子(株)の木原幹夫主幹を加えたパネルディスカッションを通じ、暮らしと住まいの再建にあたり、今後の住まいの目指すべき方向、住まいをかたち創るエンベロップ・デザインのあり方、また限りある費用負担の中で住まいの再建に当って何を優先させるべきか？についてご議論、ご提言を頂きます。



[ダウンロード](#)

なお、このシンポジウムは 国土交通省、経済産業省、復興庁、宮城県、(独)建築研究所、(独)住宅金融支援機構、(独)都市再生機構、(一社)日本建築学会、(公社)日本建築士会連合会のご後援をいただいております。

また、日本建築士会連合会の CPD プログラムに認定(4単位)されています。

被災地における暮らしと住まいの再建は緒に就いたばかりですが、被災された多くの方が一日も早く平穏な暮らしと快適な住まいを手にすることができますよう、お祈り申し上げます。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景(79) - 【櫛玉命の祭祀】 -

木下 清隆

前回、櫛田神社の創建は古く、その当時の祭神は現在の大若子命とは異なっていたとの仮説を導入したが、このような仮説を証明することは、これもまた難しい問題である。ところが、史料としてここに有力なものが一つある。それは江戸時代に出された神名帖等の著作物である。ここで云う『<sup>じんみょうちょう</sup>神名帖』とは、『延喜式神名帖』においては記載されていなかった各神社の祭神名等が考証されたものである。その著名なものが<sup>でぐちのぶつね</sup>出口延経によって著された『神名帳考証』で、享保十八年(一七三三)に完成された。著者の出口延経は、外宮の権禰宜だったと伝えられているが、彼は、伊勢の櫛田神社の祭神は「櫛玉命」としている点が注目されるのである。更に、その他の学者達の同類の書中においても、同じ名称が挙げられている。

これは一体どうしたことなのか。どうも、学者達の間では、櫛田神社の祭神はその創建時の神名が伝承され、八世紀の大若子への変更は、その記録が正式文書として残されなかったため、本来の祭神がそのまま、江戸時代まで伝承されていたとしか、考えられないことになる。

このような想定が正しいとするなら、「櫛玉命」は先にも説いたように「櫛玉饒速日尊」のことと考えられ、その誕生は欽明朝ということになる。欽明天皇は日置部を設置し、初代倭王の祭祀を積極的に進めた。その地域は、畿内近郊と西日本とされており、櫛田神社の所在地が伊勢、射水、博多、神崎であることと符合する。従って、この四社の創建時期は、欽明朝、即ち、六世紀中葉ということになる。更に櫛田なる社名は、櫛玉命に由来すると考えられ、初めに伊勢の地で櫛田神社なる名称が生まれた後、各地の櫛玉命を祀る神社もその名称を替えたと思われる。なお、伊勢の櫛田川は、櫛田神社の直ぐ側を流れる川で、本来は多気川と呼ばれていたらしいが、後世になって櫛田川に替えられた。



射水(富山) 櫛田神社

櫛田神社が、その後、なぜその祭神を櫛玉命から、大若子命に替えたのかは、必ずしも明確ではないが、何か政治的な問題が現れてきたと考えられる。具体的には記紀の中で出雲が倭国の歴史の中から抹消されたように、現実世界でも出雲関連の事跡が抹消されたということであろう。分かり易く言えば「出雲隠し」である。従って、櫛玉命がその対象となるが、この命は、先にも論じたように初代倭王そのものであり、出雲そのものである。従って、櫛玉命はズバリ出雲隠しの対称だったということである。このような状況から、伊勢の櫛田神社を祭祀していた度会氏は、朝廷からの指示を恐れて、事前に、自分達が正に売り出そうとしていた大若子命に替えて、祭神にしたということであろう。その事実を知った博多の櫛田神社も、それに倣ったということである。

このように考えると、櫛田神社に関わる諸問題の説明が可能となることから、以上の考え方を一応正しいとすると、櫛田問題は次のように結論される。

- ① 櫛田神社は、櫛玉命の祭祀のために創建された神社で、その時代は欽明朝の六世紀中葉と考えられる。
- ② 伊勢以外の博多・神崎・射水では、欽明朝に設置された日置部の活動に呼応して創建されたと考えられる。
- ③ その祭神が櫛玉命から大若子命に替えられた動機は「出雲隠し」によるものであり、伊勢での変更が博多に伝わったからである。

以上で、櫛田神社とその祭神に関する問題を終わることにするが、未だ問題は残っている。それは、この神社名の数が甚だ少ないことである。その理由は、この後の敏達天皇時代に「天照国照彦火明櫛玉饒速日尊」が誕生することと、深く関係していると考えられるが、いずれにしても、欽明天皇によって「櫛玉饒速日尊」なる諡号が贈られ、この諡号と共に初代倭王の顕彰活動が進められた中から、櫛玉命を祀る櫛田神社が誕生したといえよう。

この欽明天皇時代の重要事項は、日置部を設置し「櫛玉饒速日尊」の全国的なキャンペーンが展開されたことであり、それは国家統一が進み、天皇家の祖神として初代倭王をその地位に着け、新たに尊号を贈ったということである。このことは国家の祖神への格上げの準備作業といえるが、この作業は次の敏達天皇が引受けることになる。

当時、初代倭王は伊勢神宮において祭祀されていたが、この頃は「伊勢大神」を呼ばれていた。その伊勢大神が天皇家の祖神と位置づけられ、更には国家の祖神への道を進み始めるのである。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)



櫛田神社に奉納された  
飾り山笠

## ■ 編集後記

最近、話題の生き物と言えば「ダイオウイカ」ではないでしょうか？

小学生の頃「深海でクジラと巨大なイカが戦っている。」と聞いて以来、『巨大イカ、見たい見たい』と思い続けて早、ウン十年。NHK スペシャルで、小笠原沖 630m の深海で、世界で初めて撮影に成功したダイオウイカを見て大興奮。そしてこの夏、国立科学博物館で、5m のダイオウイカの標本が展示されるとのことで、見に行きました。見学中の子供達をかき分けかき分け、ダイオウイカにたどり着き、感激のご対面！『大きい！確かに大きい！！これが真っ暗な深海を泳いでいるのか』としばしボーゼン。映像では、金属光沢を放ちとてもキレイで、目はカメラを見つめ逆に人間を観察しているようでした。泳ぐ姿をこの目で見たい！無理か…。(漠)



## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)